

写真：短冊、吹き流し、折り鶴、紙衣などの飾りが見える、
大正時代の仙台七夕祭の様子(所蔵／風の時編集部)

おうちで仙台七夕まつり

七っ飾りの
意味と作り方

編集・発行／風の時編集部



日本古来の星祭りの 優雅さを受け継ぎ、 杜の都に四百年間 彩りたなびく 仙台七夕まつり。

東北三大まつりのひとつとして、毎年全国から200万人を超える観光客が訪れる仙台七夕まつり。和紙で作られる豪華絢爛な竹飾りは、まさに全国随一の七夕まつりと言えるでしょう。

そんな仙台七夕まつりも、もともとは、短冊や吹き流し程度の素朴な笹飾りで、各家ごとに、“家族で願いを込めて作り、飾る”素朴でつましい祭りでした。明治時代に仙台独自の飾りとして「七つ飾り」が確立し、次第に豪華さを誇る現在の七夕の形に変化していきました。

時を経て独自の飾りとして発展してきた仙台七夕まつり。本冊子では、七つ飾りに込められた願い、祈りと飾りの作り方をまとめました。

今年は“家族で願いを込めて作り、飾る”七夕飾りを、おうちで作ってみませんか――。

おうちで仙台七夕まつり

制作／風の時編集部

写真所蔵／風の時編集部

① 大正時代



② 昭和初期



③ 昭和10(1935)年



④ 昭和20年代後半



⑤ 昭和41(1966)年
(撮影／渡邊慎也氏)



⑥ 令和元(2019)年





仙台固有の「七つ飾り」を作ってみませんか？

仙台七夕まつり固有の飾り付けである「七つ飾り」。
明治期に確立され、仙台では現在でもこの「七つ飾り」が
全ての七夕飾りに飾られています。

ここでは、それぞれの飾りの意味と作り方をご紹介します。
ぜひご家族で、みなさんで「七つ飾り」づくりにチャレンジしてみましょう。

短冊 たんざく

七夕飾りの基本とも言えるもので、梶の
葉の習いから和歌や願いごとを書き、学
問や書道の上達を願います。

飾りの基本となるもので、色は青、赤、黄、
白、紫の5色の短冊を、まんべんなく笹に
結びつけます。



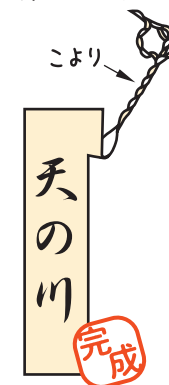
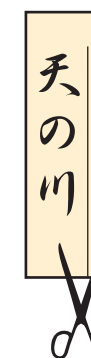
作り方のポイント

- ▶ 元来は、五色のいろ紙、短冊に
古歌や自作の和歌を書いたも
のをいう。
- ▶ 現在は、赤・青・紫・黄・白のい
ろ紙を短冊の形に切ったもの
を一般的に用いる。
- ▶ 七夕に関する言葉「七夕」「天
の川」「織姫」「彦星」などの文
字を書く。現在は願い事を書
くことが多くなっている。
- ▶ 短冊は、七夕の基本となる飾
り。たくさんつけると賑やかにな
ってよい。

つくりかた

- 1 長方形のいろ紙に文字を
書き、片側に細くハサミ
を入れる。

- 2 こよりを作り、
笹の枝に結ぶ。





吹き流し ふきななし

願い事は3年のうちに叶うとされた、五色の「願いの糸」が変形したもので、七夕飾りつけの主役と言える飾りです。

吹き流しは笹飾りを優美にする役割を持つので、形と色合いの配合には注意が必要です。涼しげな色彩に仕上げるとよいでしょう。

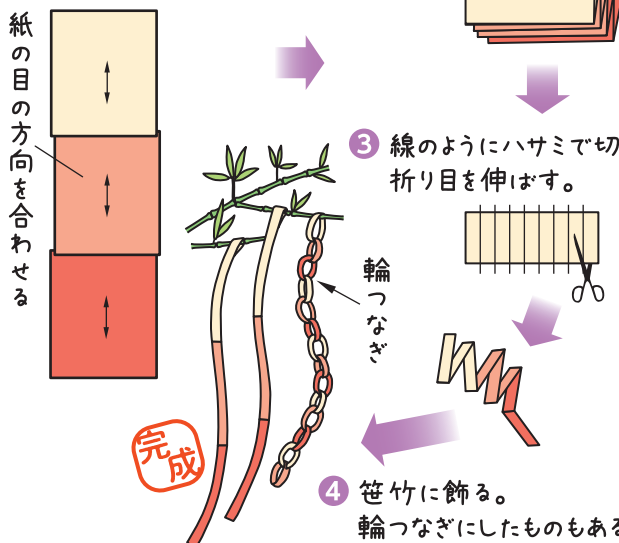


作り方のポイント

- ▶ 織り糸の垂れ下がった様子をなぞらえた「吹き流し」は、七夕の笹飾りを優美にするため、特に大切な役目をしている。紙の色の組み合わせや形には、十分な配慮を。
- ▶ 吹き流しの紙は、細くて長いものがよい。そのため、同色のテープ状の紙をつぎ合わせたり、2色以上の紙をつぎ合わせたりする。
- ▶ 1本ずつバラバラに笹竹に飾るのが古い習わしだったが、最近はいくす玉にたくさんの吹き流しを吊り下げた、きらびやかなものが見られる。

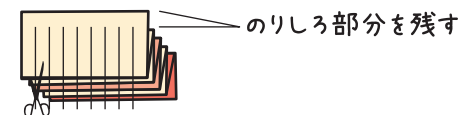
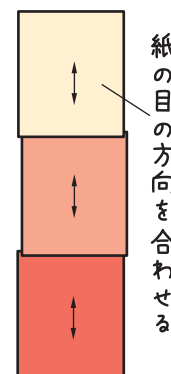
つくりかた 簡単な吹き流し

- 1 同色または色違いの紙を、何枚か貼り合わせる。
- 2 切りやすいように、ジャバラに折りたたむ。
- 3 線のようにハサミで切り、折り目を伸ばす。
- 4 笹竹に飾る。輪っなぎにしたものもある。



つくりかた 豪華な吹き流し

- 1 同色または色違いの紙を、何枚か貼り合わせる。
- 2 切りやすいようジャバラに折り、一番上になる部分のみ残して、ハサミを入れる。



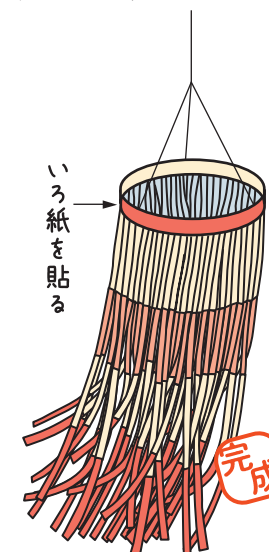
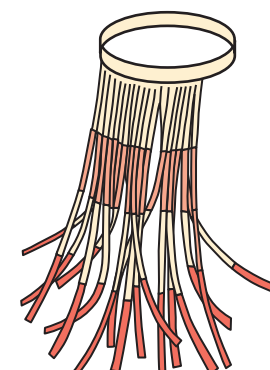
- 3 経木（またはボール紙）で曲木という輪をつくる。



作り方のポイント

- ▶ 吹き流しは二重、三重にするとボリューム感がでて、風に吹かれたときに美しい流れになる。吹き流しを重ねて貼ったり、一回り小さい曲木を中に組み入れてもよい。
- ▶ 輪っなぎにしたり、色違い柄違いの紙を組み合わせたり、貼り絵や絵を描いた吹き流しを飾るなど、いろいろなバリエーションを工夫して作るのも楽しい。
- ▶ 曲木の部分には、ここではいろいろ紙をはったが、折り花をつけてもよい。

- 4 曲木に、2で作った吹き流しの上部のりしろ部分を、順次貼っていく。
- 5 曲木の部分に、いろ紙を貼る。3カ所以上に糸をつけて吊す。





折鶴

おりづる

家内安全と延命長寿を願い、家族の最年長者の年の数だけ折られました。

多くの数を、曲木の下に吹き流し風に飾るときれいに見えます。

紙の色は気品のあるものを選ぶと美しく仕上がります。色味をグラデーションのように変化させるのもきれいです。

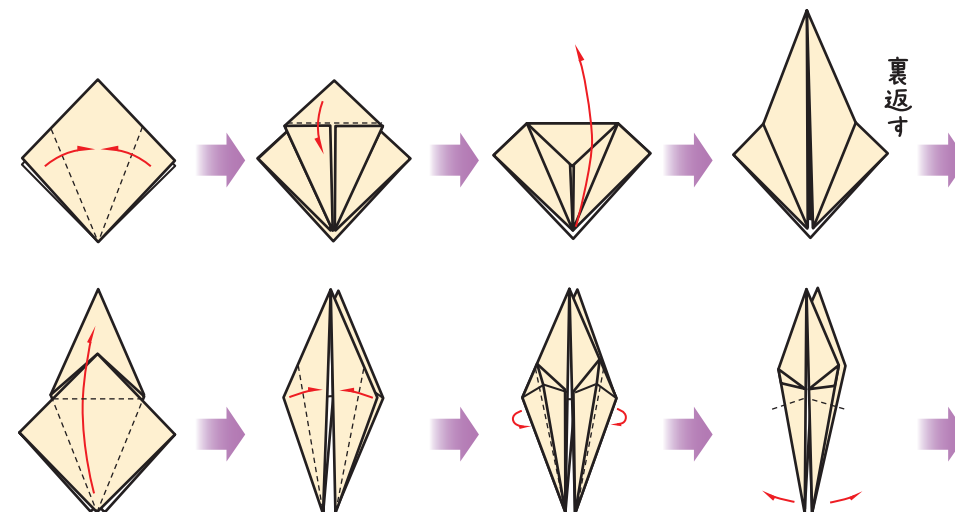
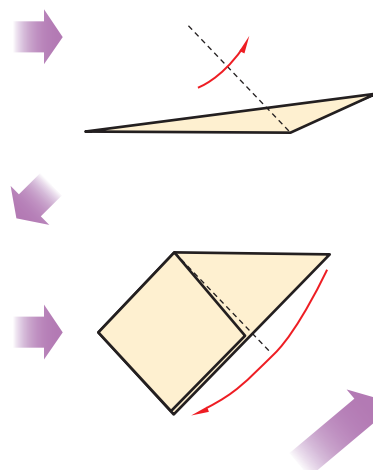
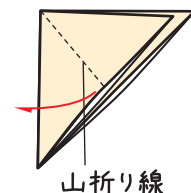
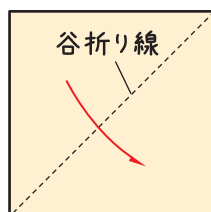


作り方のポイント

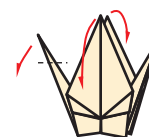
- ▶ なるべくたくさんの折鶴(300羽～1,000羽くらい)を折ってつないでいく。
- ▶ 吹き流しと同様、中に一回り小さい曲木を組み入れると、さらにボリュームがでて華やかになる。
- ▶ 糸はタコ糸の細く丈夫なものを使う。

つくりかた

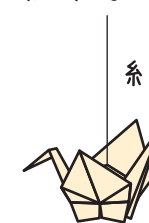
- 1 正方形の紙を、表を下にして置き、以下のように折る。



- 2 最後に翼部分を広げるときは、翼の根元をつまんでひっぱりながら開くと、背のまるみがかきれいにでる。

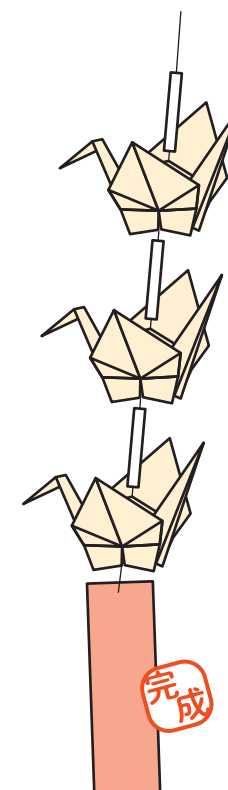


- 3 完成した折鶴を糸で吊す。



作り方のポイント

- ▶ 中間に4～5cmに切ったストローを入れて糸でつなぎ、曲木に結んで吊してもよい。
- ▶ 一番下に、厚手の短冊をつけるとよい。



投網

とあみ

海の幸の豊漁を願うとともに、海の恵みへの感謝のしるしをあらわします。

飾りを下げたとき、吊り下げる元の方の紙を長めにすると、よりきれいにに見えます。

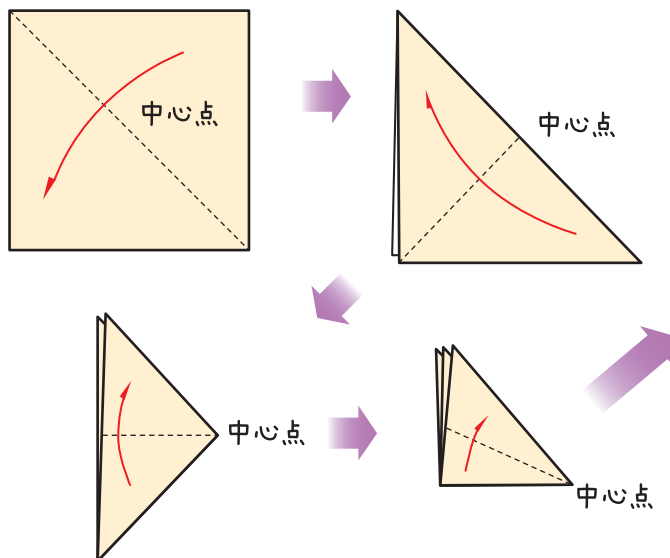


作り方のポイント

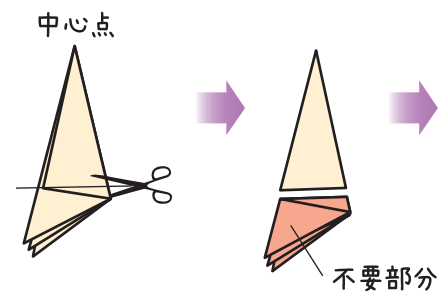
- ▶ 用紙はなるべくしなやかでコシの強い、ハトロン紙系統の紙が作りやすい。
- ▶ 大型の投網を作る場合は、大きい包装紙などを利用するのもよい。
- ▶ 模様のある紙を使う場合は模様面が内側になるように折る。

つくりかた

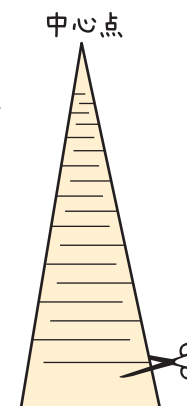
- ① 正方形の紙を、表を下にして置き、紙の中心点が常に三角形の頂点になるよう、4回折る。



- ② 中心点を頂点とする二等辺三角形の底辺になる位置をハサミでカットする。



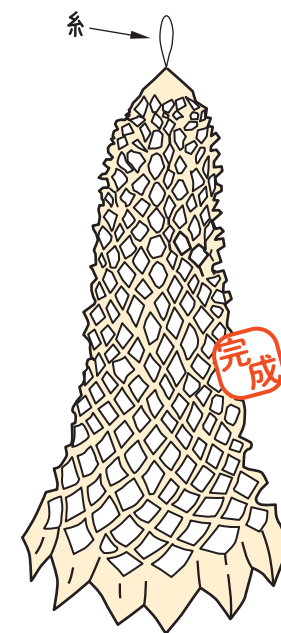
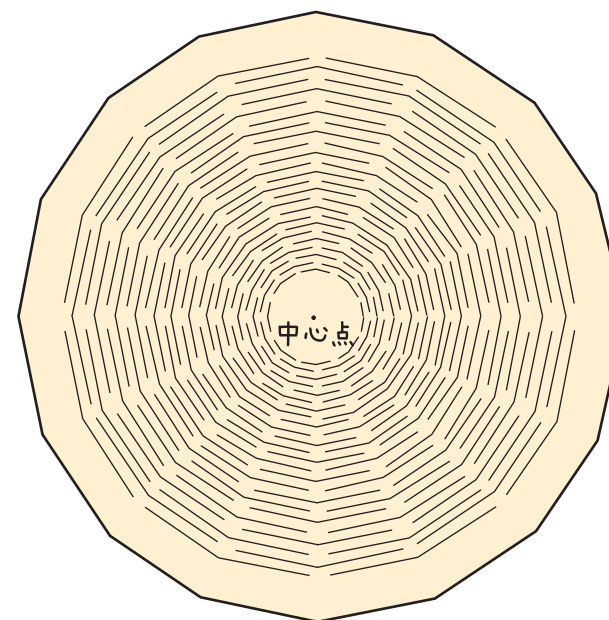
- ③ 底辺と平行になるよう、左右から互い違いにハサミを入れていく。切り込み幅は大きさによって5mm~1.5cmくらい。



作り方のポイント

- ▶ 切り込みは、頂点に近づくほど幅をせまくすると、仕上がりが美しい。
- ▶ この切り込み線が不揃いだと、仕上がりに大きな差が出るので、定規やカッターなどを使うと、よりきれいにできる。

- ④ 切り込みが終わったら、元の通りに広げて、折り目を伸ばすと、きれいな正16角形になっている。中心点に糸をつける。糸に結び目を作り紙片で押さえて、のり付けする。静かに引き上げて、吊す。



屑籠 くずかご

七夕飾りを作る際、出た紙屑を入れて飾る、くずかご。

儼約に努めて物を粗末にせず、役に立てようとした昔の人の思いを感じることができます。



作り方のポイント

- ▶ 前ページで作った投網を逆さにしたものが、この「屑籠」。途中までの作り方は前ページの投網と同じ。
- ▶ 七夕飾りを作る際にでた紙くずを最後に中に入れるため、紙が薄い場合は2枚にすると丈夫になる。
- ▶ 模様のある紙を使う場合は、模様面が外側になるように折る(図③で広げたとき模様が下側になる)。

つくりかた

- ① 前ページ「投網」の①～②の手順で作る。
- ② 屑籠の切り込みは、前ページの投網の時(③)より、その幅を2～3倍程度(10～15mmくらい)の荒さにする。
- ③ 切り込みが終わったら、投網同様、元の通りに広げて、折り目を伸ばす。
- ④ A・B・C・Dの4カ所をつまんで、静かに持ち上げる。いろ紙の裁ちくずを中に入れて、形を整えながら、持ち上げた4カ所を一緒にとじ合わせ、吊り糸をつける。



紙衣 かみごろも

和紙で作った四ツ身の子ども衣裳で、裁縫技術の上達と子どもの健やかな成長を願います。病や災い身代わりに流す形代かたしろの意味もあり、昔は実際に子どもに着せてから飾り、翌朝厄除けとして川に流しました。

紙衣は笹竹の一番先に掲げる習わしで、形も色も、目立つようにするのが効果的です。

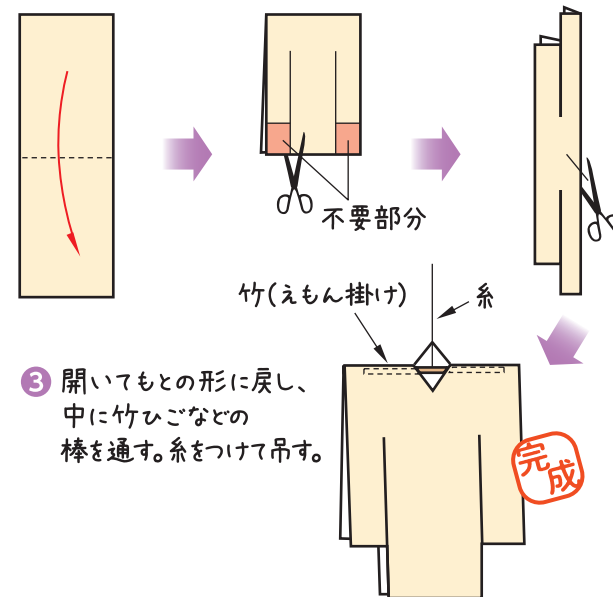


作り方のポイント

- ▶ 紙衣は、簡単な作り方と本格的な作り方の2種類ある。まずは、簡単な作り方を紹介する。

つくりかた 簡単な紙衣

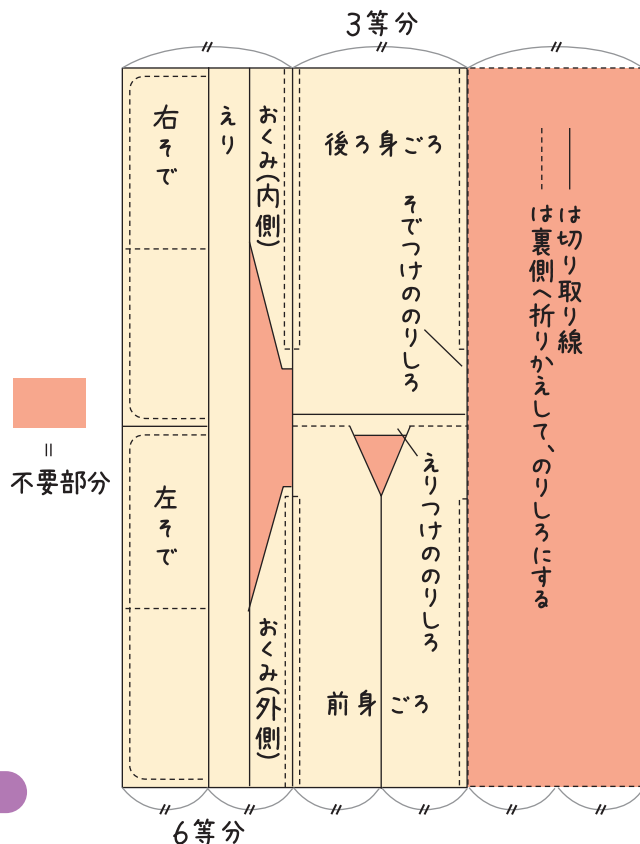
- ① 長方形のいろ紙を折り、図のようにハサミを入れる。
- ② 開き、縦に折って切り込みを入れる。
- ③ 開いてもとの形に戻し、中に竹ひごなどの棒を通す。糸をつけて吊す。





作り方のポイント

- ▶ 次に、本格的な作り方を紹介する。
- ▶ 実際の和裁に準じた裁ち方をする(紙を縦に6等分した幅を反物の幅とみてる)。
- ▶ 和紙が理想的だが、初心者にはアート紙系統の方が扱いやすい。
- ▶ そでの振りの部分を、のりしろ幅だけ裏へ折り込んでくけとりをすると、さらに美しく仕上がる。同様に、身ごろのすそや、おくみのえり下も、くけとりをする。



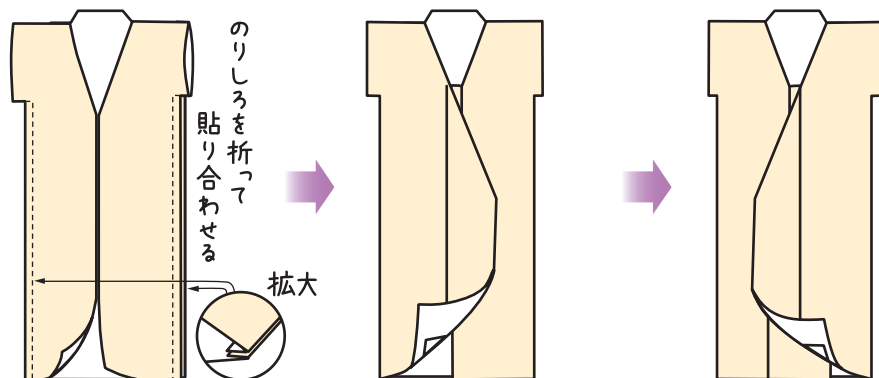
つくりかた 豪華な紙衣

① 紙を右上図のように裁断する。

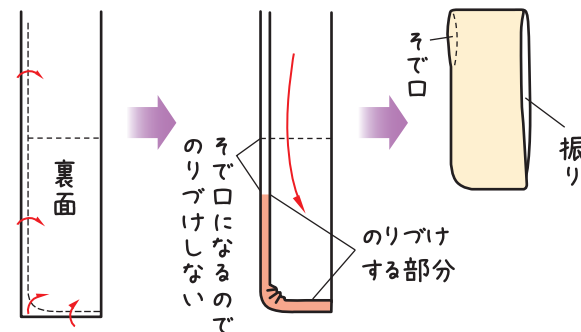
② 身ごろを2つに折って、両脇を貼る。

③ おくみ(内側)の、のりしろを折って、前身ごろに貼る。

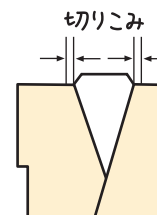
④ おくみ(外側)も同様に貼る。



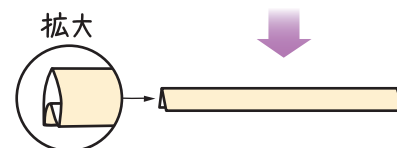
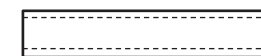
⑤ そでを2つに折って、貼り合わせる。



⑦ えりを貼る前に、えり幅ののりしろ部分に合わせて、両肩に切り込みを入れておく。



⑥ えりは、中心線に向けて両側を折りこんだ後、さらに2つ折りにする。



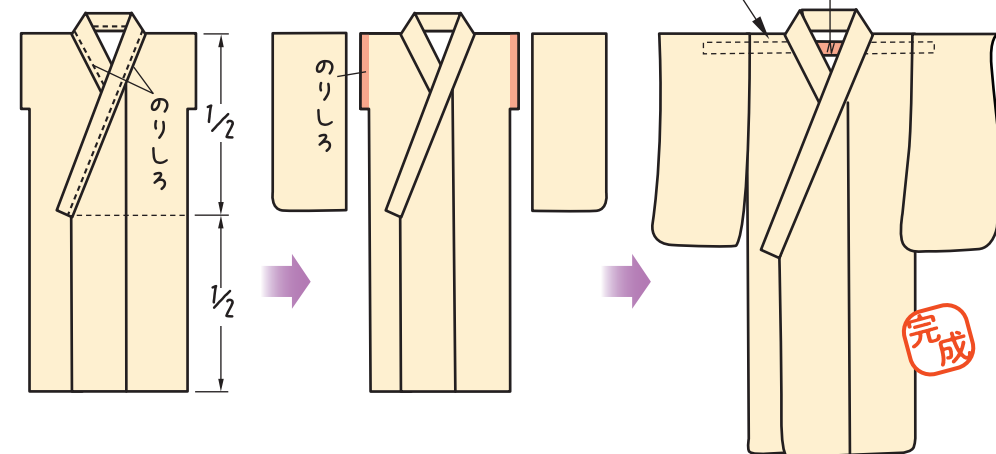
作り方のポイント

- ▶ 幅の広いえりにするときは、最初の折りかえしを小さくする。

⑧ えりを貼りつける。(身たけの1/2位が適当)

⑨ そでを貼りつける。

⑩ えもん掛けを貼りつけて、糸をつけて吊す。





巾着 きんちゃく

巾着は財布のことで、金銭に不自由しないように富貴を願います。

形が小さいと目立たないので、サイズは大きく、紙も賑やかに金紙や銀紙を用いるのも良いでしょう。

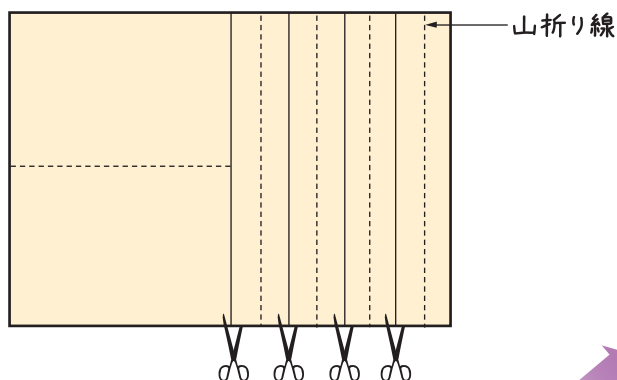


作り方のポイント

- ▶ 形や大きさは決まっていないので、好きなように作ってよい。
- ▶ 大きいほど見栄えがするし、作りやすい。小さいものは細工しにくいので、初心者は大きいものを薄めの紙で作るとよい。
- ▶ 用紙は、チラシや包装紙などを利用するのもよい。

つくりかた

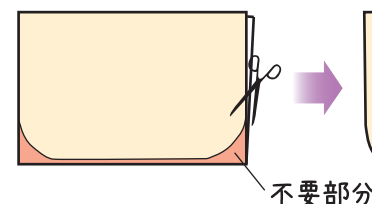
- ① 図のようにハサミを入れ、その後山折りにする。



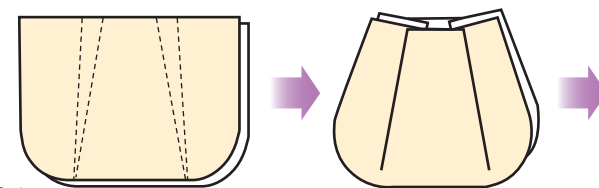
ふち飾りになる部分を2つ折りにする。 ひだをつける。



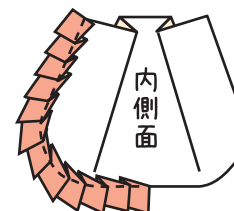
- ② 袋になる部分は、図のように不要部分をハサミでカットする。



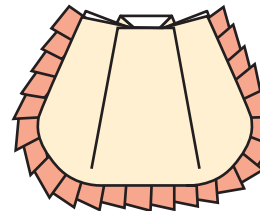
- ③ 2枚ともに、左右対称になるようタックを入れる。



- ④ ③で作った1枚の内側になる面に、ふち飾りをのりづけしていく。



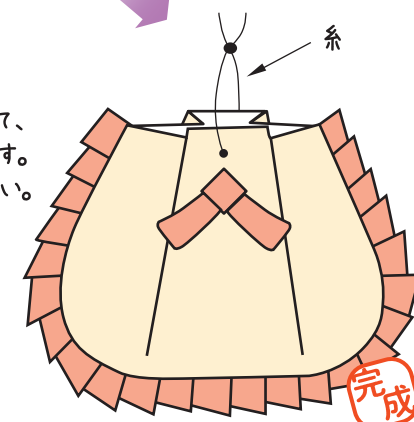
- ⑤ その上に③のもう1枚を重ねて貼る。



作り方のポイント

- ▶ 右図のように、袋部分とふち飾り部分は、別のいろ紙で組み合わせると、よりきれいに見える。
- ▶ ふち飾りには「お金に縁がありますように」との願いを込めて、金や銀の紙を使うこともある。
- ▶ 袋の形も、半円形や長四角形など、いろいろ工夫するのも楽しい。

- ⑥ 中に紙くずを入れて、口に糸をつけて吊す。リボンをつけてもよい。





くす玉 くすだま

より豪華に七夕を装飾する飾りとして、昭和10年頃から飾られ始めた、くす玉。仙台固有の「七つ飾り」の中には入っていませんが、現在は吹き流しとともに七夕飾りの主流の飾りとなっています。

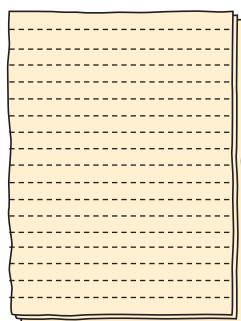


作り方のポイント

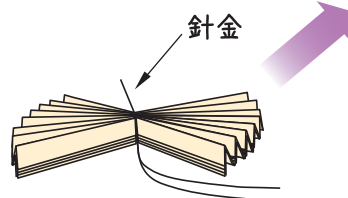
- ▶ 京花紙という、専用のやわらかい紙で作る。
- ▶ 大きなくす玉を作るときは、竹などで編んだ球状のカゴの表面に、間隔を少し詰めながらつけると、より美しく見える。
- ▶ 数色のいる紙を組み合わせ、くす玉を作っても、きれいに仕上がる。また、模様を出したいときは、京花紙を半分程度にして作る。

つくりかた

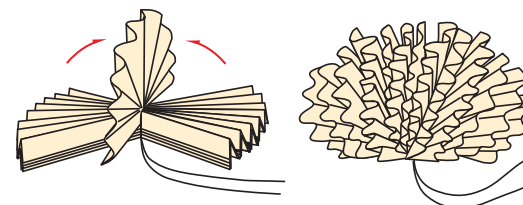
- 1 京花紙を7～10枚程度重ねて、ジャバラに折りたたむ。



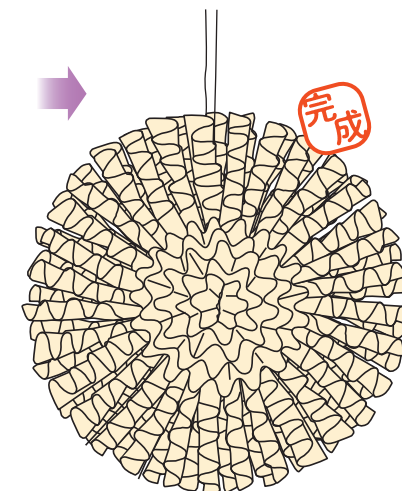
- 2 中心を細い針金で結びつける。



- 3 針金を下にして、紙を1枚ずつ中心に向けて開いていく。



- 4 10数個を束ねて、きれいな円形にする。



参考文献：「仙台七夕と盆まつり—その由来と伝承」(1971年 著／三原良吉)
「仙台七夕まつり 七夕七彩」(2007年 著／近江恵美子 発行／風の時編集部)
「仙台七夕まつり 歴代ポスター大全集」(2008年 発行／風の時編集部)

風の時編集部発行 参考文献のご紹介

仙台七夕まつりのすべてがわかる 仙台七夕まつり 七夕七彩

仙台の夏の風物詩「仙台七夕まつり」の歴史や七つ飾りの意味、作り方などを、写真や図を使いわかりやすく1冊にまとめました。日本古来の星祭りの優雅さを受け継ぎ、全国に誇る真夏の祭典へと変貌をとげた仙台七夕まつり400年の解説本です。



A5版 105ページ 英文対訳解説 復刻七夕絵葉書8枚付き
〈近江恵美子さん 執筆〉 1,905円(税別)

歴代ポスターとともに読む、半世紀の仙台 仙台七夕まつり 歴代ポスター大全集

昭和37年七夕おどりパレード初開催や、昭和62年独眼竜政宗ブームで史上最多265万人の人出で賑わうなど、各年のできごとを掲載し、昭和30年代から平成20年までの「仙台七夕まつり」の歴代ポスター約50枚をオールカラー完全収録しました。



A4版 117ページ オールカラー 2,200円(税別)

質素でも、祈り、作る“自分の七夕さん”を

子どもの成長や家内安全、豊漁を願いながらつくる仙台固有の「七つ飾り」。本冊子では、飾りの意味とつくり方を簡単にまとめました。

豪華絢爛で知られる現在の仙台七夕まつりですが、実は大正時代までは市井の素朴な「祈りの祭り」でした。その飾りが大きく変化したのは、昭和3年に開催された「第1回全市七夕飾りつけコンクール」からで、わずか90年ほど前のことです。

そんな、日本一を誇る豪華な七夕飾りも、コロナ禍の影響により中止となってしまう、残念ながら今年は見ることはできません。

「観光七夕の陰で見落とされがちな、市民の手づくり七夕の復権を大いに期待したい。」当編集部が2007年に発行した『仙台七夕まつり 七夕七彩』で、著者の近江恵美子さんはこのように原稿を結んでいます。市民ひとりひとりが、そして思い思いの七夕飾りが、市内のあちこちに飾られるかつての“七夕さん”。例え、質素でも、祈り、作るという本来の“七夕さん”の再来を望んだ一文でした。

戦後初の中止となった今年の仙台七夕まつりですが、一方、有志で七夕飾りを作るなど、今年は七夕が身近になっているようにも感じます。もしかすると、仙台の七夕の良き伝統を活かしつつ新たな七夕が生まれたと、今年は後世に語り継がれる年になるかもしれません。

仙台固有の七つ飾り、まずは、ひとつ作ってみませんか――。



七夕飾りが大きく変化した昭和時代初期頃の仙台七夕祭。大正時代の飾り(表紙)と比較し、ボリューム感のある飾りになっているのが分かる。
(所蔵／風の時編集部)

2020(令和2)年7月7日

風の時編集部 佐藤 正実

■制作・資料所蔵

有限会社イーピー 風の時編集部

仙台市宮城野区榴岡3丁目11-5 A-610 TEL.022-295-9568
info@sendai-city.net <https://kaze-no-toki.hatenadiary.org>

〈無断複製・複写・転載を禁じます〉



楽天市場



Facebook